

平成15年度  
第1回四国地方整備局  
事業評価監視委員会資料

# 土器川総合開発事業について

再 評 価

平成15年8月4日

国土交通省 四国地方整備局

# 目次

1. 土器川の概要	1
1) 流域の概要	1
2) 河川改修概要	1
3) 土器川の特徴	3
2. 治水・利水の現状	6
1) 土器川の現況治水安全度	6
2) 過去の洪水被害	6
3) 土器川の利水状況	8
4) 過去の渇水被害	8
3. 土器川総合開発事業	10
1) 土器川総合開発事業概要	10
2) 土器川利水検討会の経緯	13
4. 事業の再評価	22

# 1. 土器川の概要

## 1) 流域の概要

土器川は、香川・徳島県境の讃岐山脈の真鈴峠に源を発し、中讃地域を南北に貫流して瀬戸内海に注ぐ流域面積 140km<sup>2</sup>、幹川流路延長 33km の一級河川である。流域の特徴は、全国でも有名な寡雨地域であり、河床勾配が急で鉄砲水と濁水が頻発しやすい流域である。流域関係市町は 3 市 6 町で、人口は 24 万 7 千人である。

## 2) 河川改修概要

土器川では、大正元年、大正 7 年に大洪水が発生し、沿川住民の強い要望を反映して、土器川改修期成同盟会が結成され、大正 11 年 7 月に香川県が土器川の改修に着手した。戦後においては、昭和 24 年に大災害を受け、それを契機に昭和 25 年により香川県中小河川改修事業として施工した。その後、昭和 43 年度に一級水系に指定され、国の直轄事業として改修事業が実施されている。現在の工事実施基本計画(H2)では計画高水流量等は、次のとおりとなっている。

表-1 土器川の洪水調節計画

基準点	計画規模	基本高水のピーク流量	ダムによる調節流量	計画高水流量
祓川橋	1/100	1,700	350	1,350

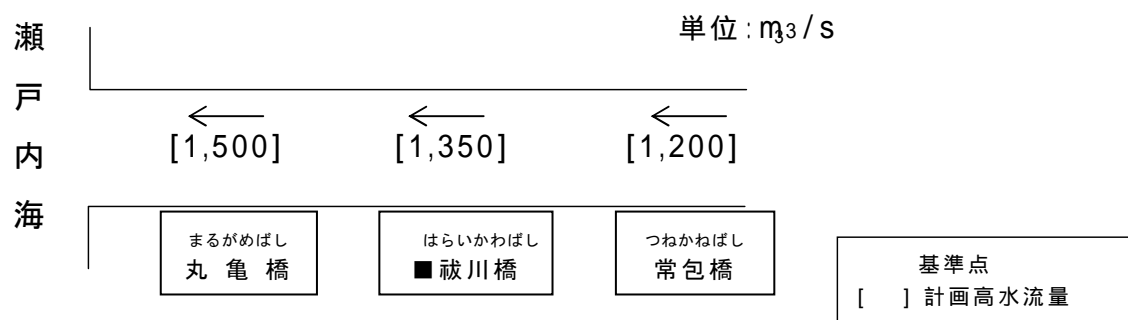


図-1 流量配分図

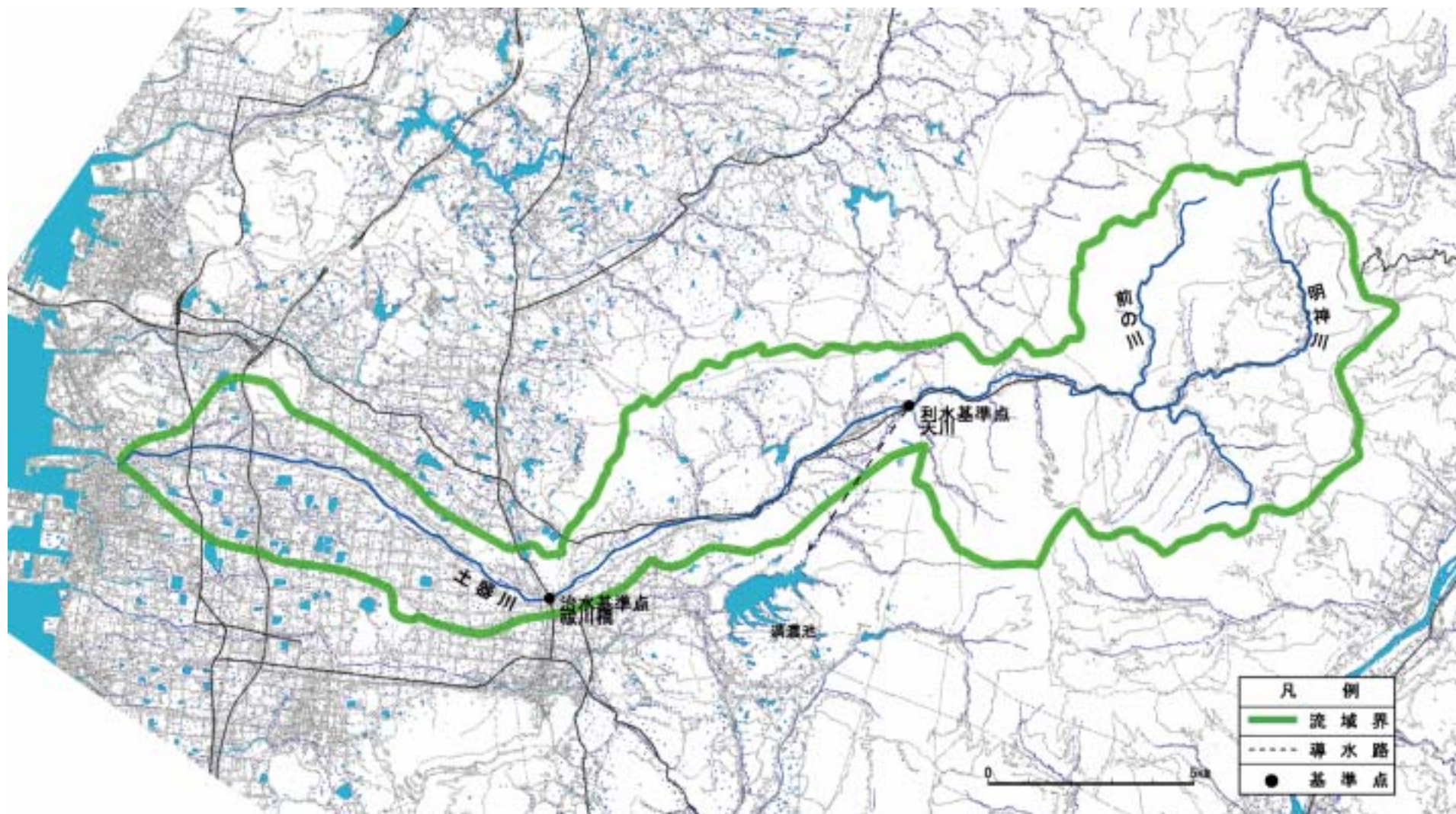


图-2 土器川流域图

### 3) 土器川の特徴

#### ①河床勾配

土器川の河床勾配は、河口から5km付近まで約1/300程度、河口5kmから18km付近まで約1/100程度と全国の主要河川の中でも急勾配となっており、洪水の流出が早く、流量も短時間で急激に増加する傾向がある。

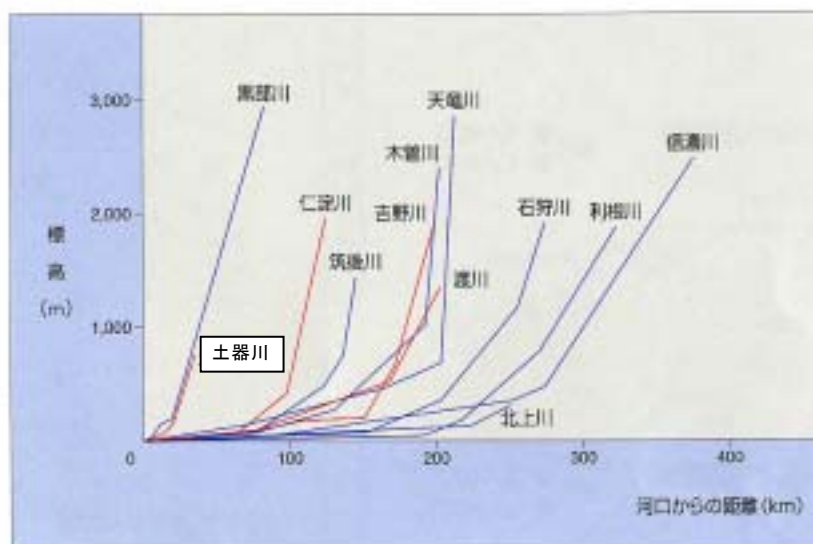


図-3 土器川の河床勾配と全国主要河川との比較

#### ②河状係数

最大流量と最小流量の比率(河状係数)が極めて大きい河川である。

河川名	観測所	最大流量 (m <sup>3</sup> /s)	最小流量 (m <sup>3</sup> /s)
吉野川	岩津	6,167	22
那賀川	古庄	2,922	2
<b>土器川</b>	<b>常包橋</b>	<b>192</b>	<b>0.04</b>
重信川	出合	806	0.14
肱川	大洲	1,472	3
物部川	深淵	1,417	1
仁淀川	伊野	4,849	11
四万十川	具同	5,623	18
利根川	八斗島	3,018	58
信濃川	小千谷	2,996	70
木曾川	犬山	5,113	52
天竜川	鹿島	3,631	44
筑後川	荒瀬	2,176	22



流量年表より作成 (H. 3 年~H. 12 年平均) ※河状係数=最大流量/最小流量

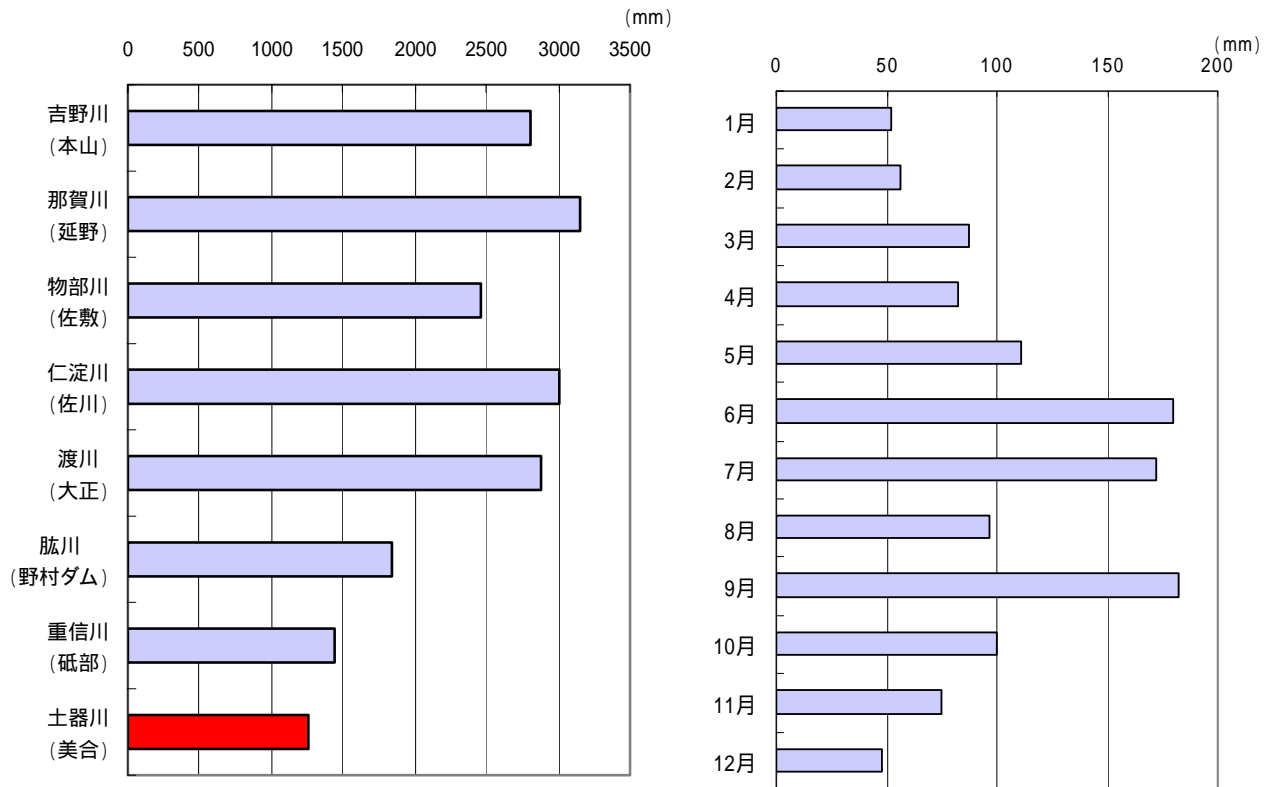
図-4 土器川の河川特性と全国主要河川との比較

### ③降雨量

土器川流域は、瀬戸内海気候に属しており、年平均降水量は1,200mm程度と全国的にも少なく、さらにほとんどが6月～9月の梅雨期と台風期に集中している。



図-5 四国の年雨量



( ) 書は、雨量観測所名を示す。  
出典：雨量年表 (H. 3～H. 12)

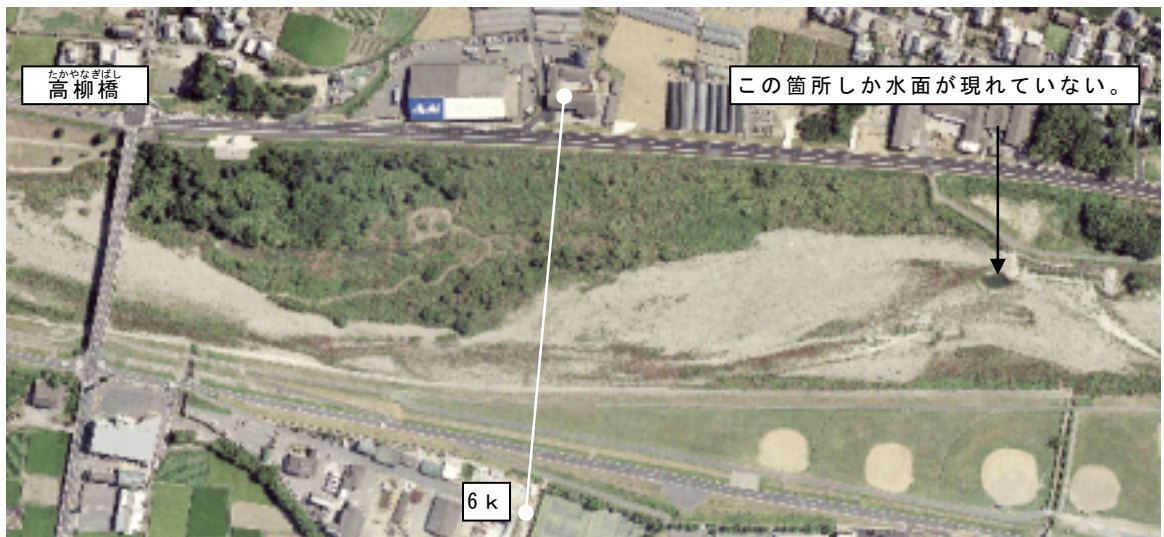
図-6 四国 8 水系 10 ヶ年平均年雨量 (H. 3～H. 12)

図-7 土器川水系の月雨量 (美合観測所 H. 3～H. 12の10ヶ年平均)

#### ④河床（瀬切れ）

土器川は、流路延長の大半が山地急流河川であるため、平地に出た付近では土砂の堆積が著しい天井河川である。また、少雨地域であるため、1年のうち200日程度は、表流水が途切れるいわゆる瀬切れ状態が直轄区間（18.85km）のうち概ね2/3の区間に現れる。

##### 【5k600～6k400 付近】



##### 【7k400～8k200 付近】



写真-1 土器川の航空写真（H. 14. 9 撮影）

## 2. 治水・利水の現状

### 1) 土器川の現況治水安全度

土器川の治水施設の整備状況は、堤防整備率が61%と依然として低く、また、一部引堤を必要とする区間、上流部の無堤地区、また下流の狭窄部において流下能力が大幅に不足する区間が残っている。

こうした状況のもと、現在の土器川の治水安全度は、概略1/20程度と低い状況にあり、地域の社会経済の発展、人命及び財産の保護のためにも治水安全度の向上が望まれている。

### 2) 近年の洪水被害

洪水発生年月日	最大流量 ( $\text{m}^3/\text{s}$ )	発生原因	全壊流出 (棟)	床上浸水 (棟)	床下浸水 (棟)	浸水面積 (ha)
S47.9.16	欠測	台風20号	—	3	139	62.0
S50.8.23	約1,130	台風6号	—	1350(戸)		(430.0)
S54.9.30	約800	台風16号	—	2	44	17.0
S55.10.14	欠測	台風19号	—	—	—	2.6
S58.9.28	約410	台風10号	1	—	27	36.5
S62.10.17	約480	台風19号	—	3	18	43.1
H2.9.19	約1,170	台風19号	—	87(戸)	177(戸)	67.1
H9.7.26	約600	台風9号	—	—	—	—

出典：水害統計、土器川水系工事実施基本計画参考資料、土器川前の川ダム建設事業計画書等

( )書き：浸水農地面積

## 洪水・被害状況



S. 50 台風 6 号による出水は、戦後最大の洪水となり、随所で甚大な河道災害をもたらした。(11K5 左岸堤防の堤脚洗堀状況)



S. 51 台風 17 号で土器川、長尾堤防が欠壊し、木流しにより堤防を防いだ。



H. 9. 9 台風 19 号による満濃町常包橋下流の洪水状況

### 3) 土器川の利水状況

土器川周辺の水利用は香川用水の完成により大幅に好転したが、香川用水が節水すると、すぐに渇水となる状況である。特に平成 6 年夏の渇水時には、多くのかんがい用水の取水が困難となった。一方、土器川流域の丸亀市、飯山町等の水道用水は香川用水を補給水源としており、香川用水の取水制限が実施されれば直接影響を受けることから、沿川地域からは水資源開発に対する強い要望が求められている。

### 4) 過去の渇水被害

#### ①香川用水取水制限状況

昭和 50 年の通水開始以降平成 13 年までの 27 年間で、19 回の取水制限が実施されている。

[近年の主な取水制限状況]

制限期間	取水制限状況
H. 6. 6. 29～8. 19 H. 6. 8. 31～11. 14	早明浦ダム利水容量が底をつき発電専用容量から生活用水のみ補給
H. 7. 8. 28～10. 23	香川用水取水制限率 最大 50%
H. 10. 8. 30～9. 21	香川用水取水制限率 最大 50%
H. 13. 6. 17～9. 11	香川用水取水制限率 最大 35%

#### ②土器川流域の平成 6 年渇水時の状況

項目	渇水状況
農業用水	取水不能となり、水稻の立ち枯れ等が生じたほか、水を公平に分配する「水当番」制度が復活した。
水道用水	2 市 5 町で給水制限等が行われた。 減圧給水 : 綾歌町、琴平町、満濃町 夜間断水 : 丸亀市、善通寺市 9 時間給水 : 宇多津町 4 時間給水 : 飯山町
工業用水	中讃地区工業用水では、67 日間にわたり、15～50%の給水制限が行われた。



### 3. 土器川総合開発事業

#### 1) 土器川総合開発事業概要

##### ①前の川ダム建設事業概要

前の川ダム建設事業は、平成 3 年に実施計画調査に着手したが、水開発単価が高く流域の市町の利水参画が難しいことと、洪水対策としては河道改修などで対応できるということから平成 10 年に休止となっている。

##### ②前の川ダムが「休止」となった理由

- ・利水上の緊急性は高いものの、水開発単価が極めて高く利水者の参画が困難である。
- ・土器川の治水対策としては、上流洪水調節施設より河道改修案が有力と考えられる。
- ・財政構造改革による公共事業予算の大幅削減の結果、調査中のダムは非常に厳しい予算と成らざるを得ないこと。

前の川ダム治水効果と同じ効果を他の治水方策で実施した時の事業費（平成 10 年時点での算定結果であり条件により変動有り）

治水方策	内 容	推定事業費
河床掘削	平均 0.6m・延長 3.4km	約 50 億
引堤	最大 35m・延長 1.6km	約 250 億
遊水地	社会条件にて買収不可	—
前の川ダム	前の川ダムの治水負担分	約 250 億

##### ③土器川総合開発事業概要

前の川ダム休止後においても、土器川沿川から水資源開発を求める強い声があること、また全国有数の渇水地域であることに鑑み、従前の前の川ダム計画は一端白紙とした上で、土器川の治水・利水・河川環境問題を総合的に解決するため「土器川総合開発事業」として開始した。

【総事業費 590 億円】

(H12:0.4 億円、H13:0.4 億円、H14:0.3 億円、H15:0.3 億円)



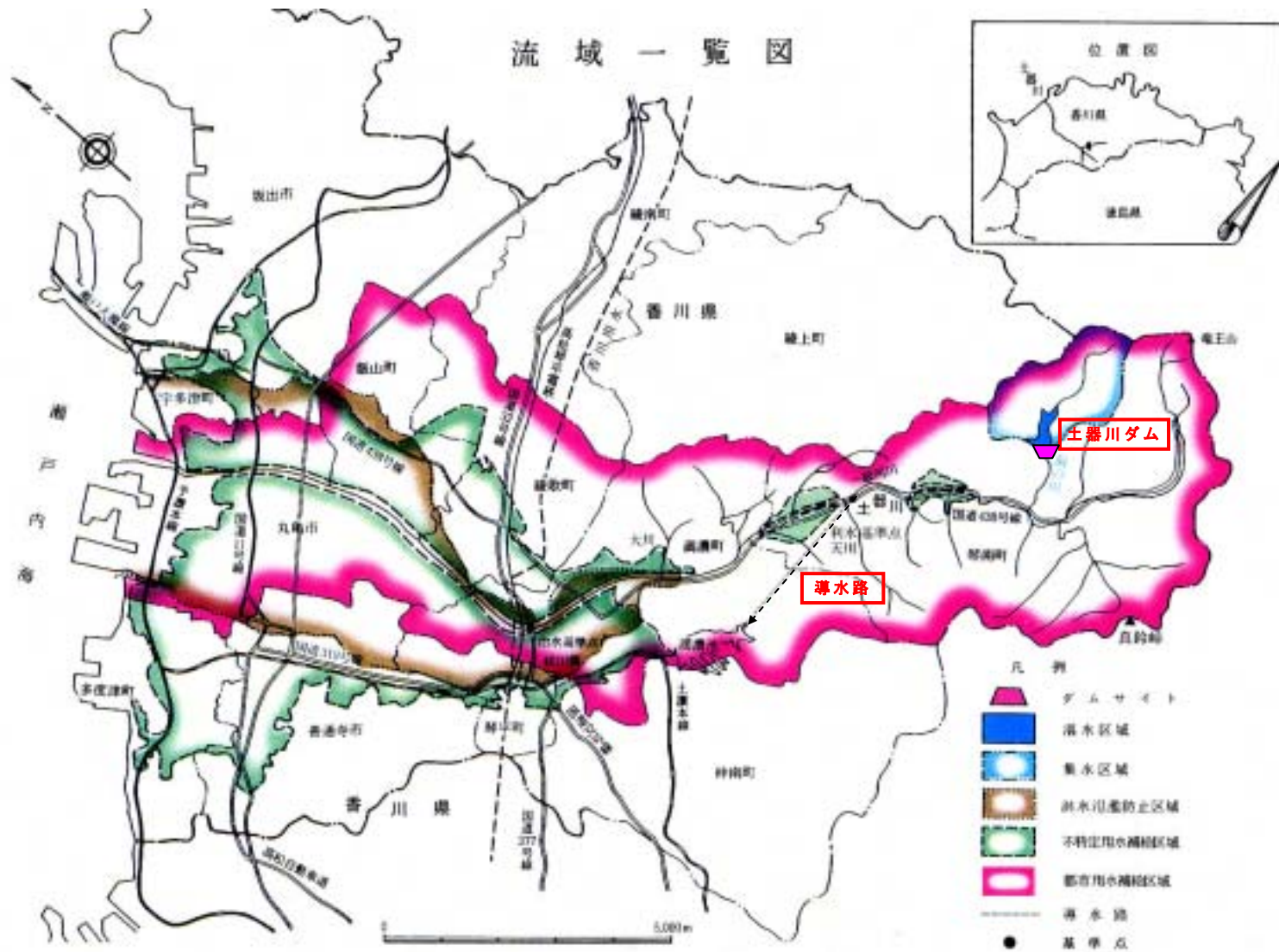


図-8 土器川総合開発事業説明図

## 2) 土器川利水検討会の経緯

### ①「土器川利水検討会」の概要

前の川ダムは休止となったものの、土器川の利水安全度、河川環境は不十分であり、広域的に多目的ダム以外の方策をも含めて検討する場として、国・香川県・関係市町村代表・土地改良団体が集まり、「土器川利水検討会」の発足に至った。

### ②土器川利水検討会メンバー

	検討会	作業部会
香川県	環境森林部長 農政水産部長 土木部長	環境水政策課長 土地改良課長 河川砂防課長
丸亀市	市長	助役
琴南町	町長	助役
土器川ダム対策土地改良団体連絡協議会	会長	会長 副会長 副会長
国土交通省 四国地方整備局	河川部長  香川河川国道事務所長	河川調査官 河川計画課長 副所長

### ③利水検討会 6 方策の内容と結果

方策	検討内容	検討結果
(1) ダム単独案	ダム単独による新規利水開発及び不特定補給の可能性を検討する。	開発単価が高い。 約 1,700 円/m <sup>3</sup> ～ 約 4,300 円/m <sup>3</sup>
(2) ダムと既設ため池との連携	ダムと既設ため池との連携運用により、新規利水開発及び不特定補給の可能性を検討する。	導水路の増強が必要。 約 2,200 円/m <sup>3</sup>
(3) 既設ため池の有効活用	既設ため池の有効活用により、効果的に新規利水開発の可能性を検討する。	安定的な新規利用は不可能。
(4) 下水処理水の有効活用	下水処理水の再利用の可能性を検討する。	下水処理水質は環境基準を満たしていないため高度処理が必要である。約 300 円/m <sup>3</sup>
(5) 地下水の活用	新たな地下水利用の可能性を検討する。	既存データ不足のため地下水構造を検討できない。
(6) 砂防ダムのダム群の建設	小規模貯水池群による新規利水の可能性を検討する。	新規開発量が少量である。

## (1) ダム単独

ダム単独による新規利水開発及び不特定補給の可能性を検討する。

### 検討条件・方向性

- ・土器川上流域で、多目的ダムの建設が可能なダムサイトを選定。
- ・ダム直下の河川維持流量を確保する。
- ・現状の天川地点の取水形態に影響を与えない。
- ・現状の慣行水利に影響を与えない。

### 検討結果

#### 開発量・開発単価等

ケース	正常流量 補給率(%)	開発量 (m <sup>3</sup> /日)	事業費 (億円)	利水者負担 額(億円)	開発単価 (円/m <sup>3</sup> )
1	0	約 5,300	約 510	約 330	約 1,700
2	約 30	約 3,000		約 250	約 2,300
3	約 45	約 2,000		約 210	約 2,800
4	約 60	約 800		約 130	約 4,300
5	約 70	0		0	0

- ・ケース 1~4 においては、新規開発は可能であるがいずれも開発単価が高い。
- ・ケース 5 については、新規開発は不可能である。



## (2) ダムと既設ため池との連携

ダム単独運用で検討する多目的ダムと、既設ため池(A池, B池, C池)との連携運用により、新規利水開発及び不特定補給の可能性を検討する。

### 検討条件・方向性

- ・ ため池の空き容量に土器川の無効流出量を貯留する。
- ・ 水利権の変更を伴う。

### 検討結果

#### 開発量・開発単価等

ケース	正常流量 補給率(%)	開発量 (m <sup>3</sup> /日)	事業費 (億円)	利水者負担 額(億円)	開発単価 (円/m <sup>3</sup> )
1	約 60	約 2,800	約 590	約 230	約 2,200
2	約 80	0		0	0

- ・ 左岸側 A 池への影響を回避(過去の平均貯水量を下回らない)するために現況(8m<sup>3</sup>/s)の導水路を 20m<sup>3</sup>/s へ増強している。
- ・ 右岸側の B 池, C 池は、非かんがい期に養魚捕獲のため、一端全量放流する状況であり、連携運用効果が計り難い。



### (3) 既設ため池の有効活用

既設ため池(A池, B池, C池, D池, E池)の有効活用により、効果的に新規利水開発の可能性を検討する。

#### 検討条件・方向性

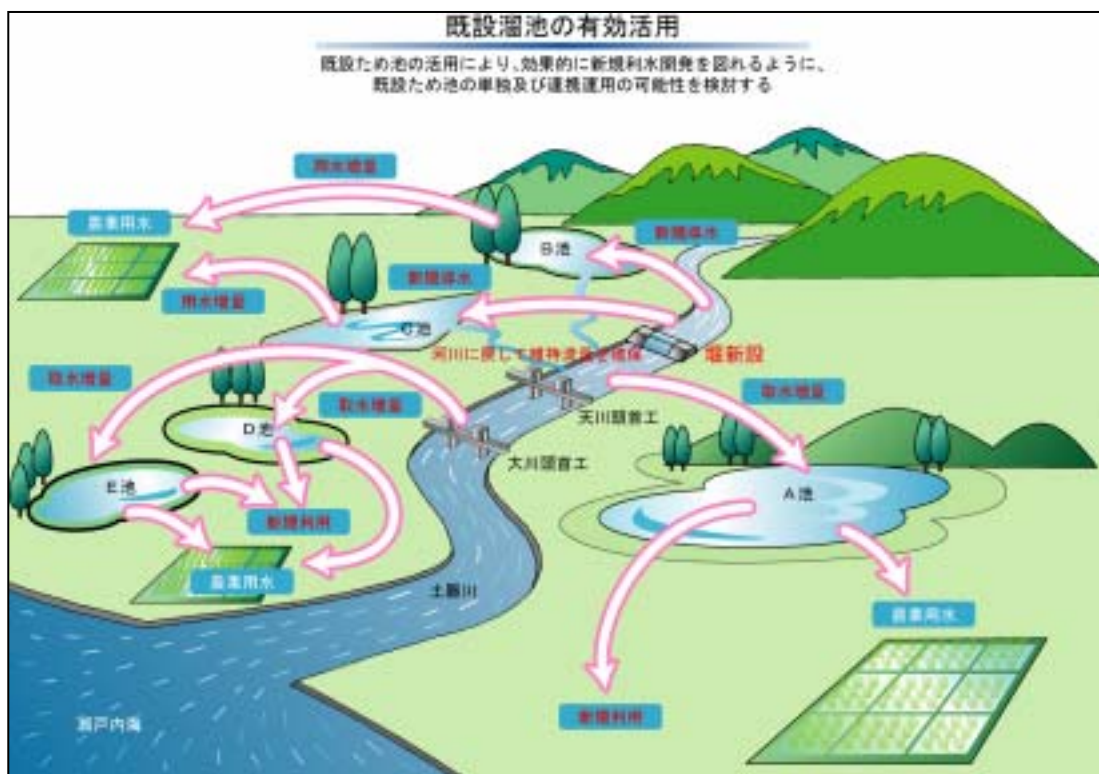
- ・ 既設ため池の貯水池運用方法の変更を伴う。
- ・ 既得の慣行水利や水利権の変更を伴う。
- ・ 天川導水の総量規制は無視する。

#### 検討結果

##### A池(左岸側)

ケース	天川導水規模 (m <sup>3</sup> /s)	新規利用可能 (m <sup>3</sup> /日)	備考
1	10	約 3,300	増強 2 m <sup>3</sup> /s、20 箇年平均値
2	20	約 9,700	増強 12 m <sup>3</sup> /s、20 箇年平均値

- ・ 現状の A 池運用に影響を与えない、安定的な新規利用は不可能。
- ・ 右岸側の 4 ため池(B池, C池, D池, E池)は、非かんがい期に養魚捕獲のため、一端全量放流する状況であり、連携運用効果が計り難い。



## (4) 下水処理水の有効活用

下水処理水(丸亀市浄化センター・大東川浄化センター)の再利用の可能性を検討する。

### 検討条件・方向性

- ・ 下水処理水の有効活用方策として、
  - ① 都市用水
  - ② 河川維持・地下水涵養
  - ③ 農業用水への再利用が考えられる。

### 検討結果

- ・ 両浄化センター共、下水処理水質は環境基準(水道水・水産用水・農業用水)を満たしていない。
- ・ 再利用を図るためには、いずれのケースも高度処理が必要となる。
- ・ 高度処理をした場合の利用可能量は約 6 万 m<sup>3</sup>/日(将来処理計画量の半分)、水単価は約 300 円/ m<sup>3</sup>(送水・運転・施設費)



## (5) 地下水の活用

土器川周辺における、新たな地下水利用の可能性を検討する。

### 検討条件・方向性

- ・ 既設・新設井戸を対象とする。
- ・ 既存の文献・地下水データにより検討する。

### 検討結果

- ・ 中讃地域における平成9年の生活・工業用途に利用された地下水取水量は約3万 $m^3$ /日である。
- ・ 収集された既存データ資料(地下水・実取水・地質など)は、地域的にばらつきが大きく、データ量も少ないため、中讃地域全体の地下水構造を検討できる状況にない。
- ・ 地下水取水による影響が多方面に及ぶことが想定され、地下水実態・保全・管理などの長期的な調査が必要となる。



## (6) 砂防ダムの群的建設

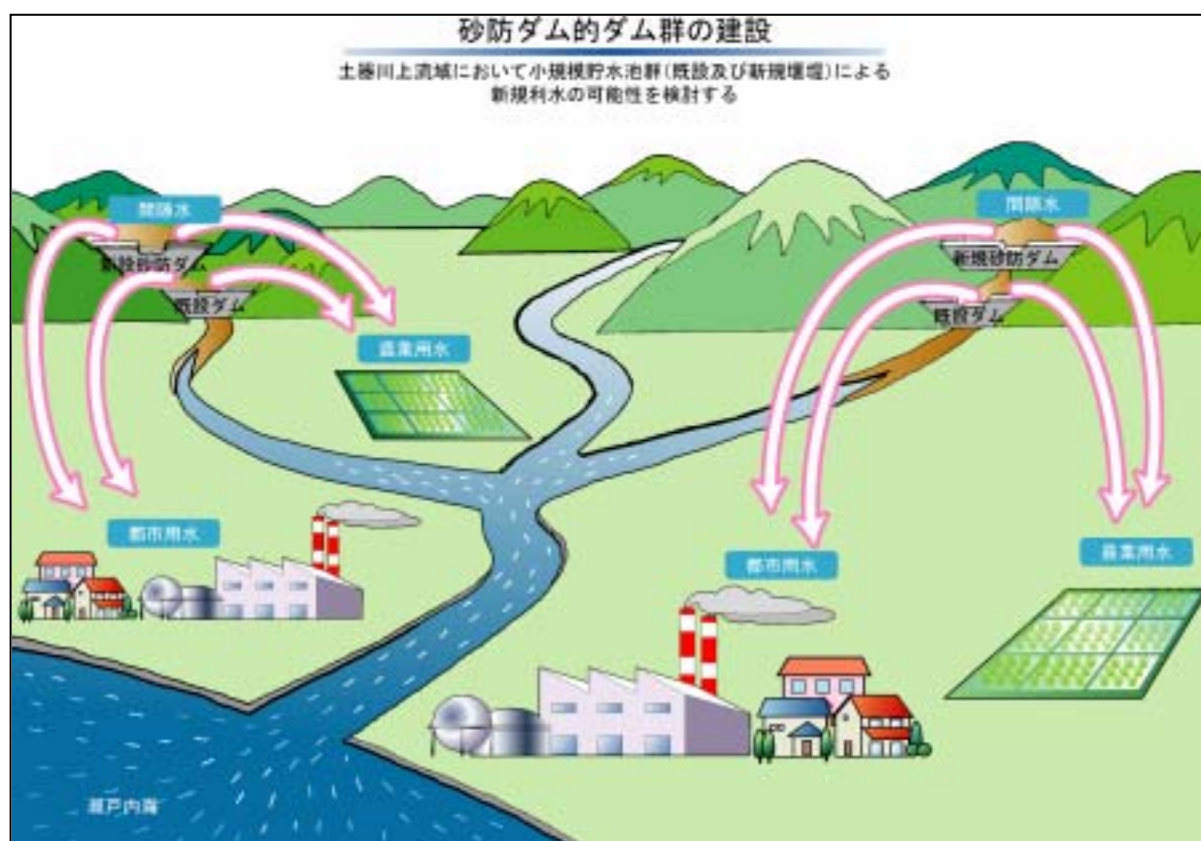
土器川上流域における、小規模貯水池群による新規利水の可能性を検討する。

### 検討条件・方向性

- ・ 前の川, 明神川, 柞野川を除く支川の既設・新設の堰堤を対象とする。

### 検討結果

- ・ 各支川における既設砂防ダムの新規利水可能量は下流の河川維持流量を考慮すると、2 支川で年間 1,500 m<sup>3</sup> と僅かである。  
(1 人 1 日給水量を 300 ㍓とすると 14 人分しかまかなえない)
- ・ 新規で有効的なダムサイト、既設砂防ダムの嵩上げなどが可能な施設は見あたらない。



#### ④ 関係市町の最終判断

市町名	内容
丸亀市	・ 水単価が高く、利水参画はできない。
飯山町	・ 水単価が高く無理、下水処理の再利用も同様である。
綾歌町	・ 町単独では、新規利水開発の具体的な議論には乗りにくい。
満濃町	・ 原水単価が高すぎるため、到底町としての負担は困難である。
琴南町	・ 原水単価が高すぎるため、到底町としての負担は困難である。 ・ 前の川ダムの件で、当該地区は行政不信に陥っており、早く結論を出してもらいたい。

#### ⑤ 第2回土器川利水検討会の結論(H15.7.18)

利水の見込が立たない以上、特定多目的ダム建設事業である土器川総合開発事業は成り立たず、事業の中止はやむを得ない。

なお、今後とも水資源対策については、利水検討会において国・県・地方自治体・関係者が協力して努力していく。

また、土器川の治水・利水・環境については、河川整備計画を策定する中で流域の意見を踏まえて検討していく。

# 土器川開発中止へ

## 周辺市町に利水意思なし

流域検討会

県内唯一の一級河川・土器川の水利用などを協議する「土器川利水検討会」(会長・新井丸亀市長)は十八日、高松市内で会合を開き、治水対策としてダム建設などを検討する「土器川総合開発事業」は困難との方針を決定した。開発コストが高く、周辺市町に利水の意思がないことなどが要因で、これを認め、四国地方整備局は近く、大学教員らで構成する同局事業評価監視委員会に事業の中止を提案する。

土器川水系では、琴南局河川部長や県の各担当部長、流域市町の首長ら八人でつくる検討会を設け、ダム建設や既設ため池の有効活用など六項目の検討事項について協議してきた。

同日の会合で、ダム建設は水道料金が従来の十倍以上になると、水単価が高いなどとする周辺一市四町の意見を踏まえ、必要ないと判断。このほか、地下水については一定量の確保が見込めず、既設ため池も現在の運用ルールを変えられないことなどから、ダムとため池の連携活用なども無理との結論を出した。

### 土器川利水検討会 開発中止を提案へ

丸亀市などを流れる県内唯一の一級河川・土器川流域の水利用について話し合う「第二回土器川利水検討会」(会長・新井哲一・丸亀市長)が十八日、高松市内で開かれ、新たな開発は費用が高く、加盟の一市四町に参加の意思がないため、四国地方整備局事業評価監視委員会に事業中止を提案することを決めた。

### 利水開発の 中止を決定 土器川

琴南町の「前の川ダム」計画が98年に休止された土器川の利水を圖や地元が検討する「土器川利水検討会」は、開発コストが高いとして、新規の利水開発の断念を決めた。

同ダム計画は、旧建設省の見直しで休止。地元が治水対策を求め、別の利水策を検討したが、水単価が通常の10倍以上になると試算。丸亀市など地元5市町は「事業計画は困難」と判断した。

## 4. 事業の再評価

事業の概要	事業名	土器川総合開発事業	事業種別	特定多目的ダム建設事業		
	水系名等	一級水系土器川	河川名等	土器川		
	事業主体	四国地方整備局	管理者名	四国地方整備局長		
	市町村名(事業区間)	香川県仲多度郡琴南町	延長	33km		
	事業採択年度	平成12年度				
	事業期間	平成12年度～				
	用地着手	未着手	工事着手	未着手		
	再評価実施理由	事業採択後4年目。 社会経済情勢の急激な変化、技術革新等により再評価の必要が生じた事業				
	全体事業費	—				
事業の目的						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 治水機能の向上（洪水調節）</li> <li>・ 利水機能の向上（流水の正常な機能の維持、都市用水の補給）</li> <li>・ 河川環境の改善（瀬切れの改善）</li> </ul>						
構成施設(全体事業量)						
—						
位置図						

事業を巡る社会の経済情勢等の変化の必要性	現状での課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・堤防整備率が61%と低く、また流下能力が大幅に不足する箇所が残っており治水安全度が低い。</li> <li>・平成6年の渇水時には、農業用水の取水不能により水稲の立ち枯れが生じ、土器川沿川の市町では、水道用水の時間給水が行われた。</li> <li>・土器川は、年間200日程度、川底が干上がる瀬切れ状態となるため、魚類等水生動植物の生息条件や景観などの河川環境が良好とは言えない。</li> </ul>												
	災害発生時の影響	<p>1) 洪水被害発生時の影響（氾濫区域内）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 浸水面積：63 km<sup>2</sup></li> <li>② 人口：8万9千人</li> <li>③ 戸数：8,915戸</li> </ul> <p>2) 渇水発生時の影響</p> <p>平成6年夏の渇水時には、香川用水と土器川に依存するかんがい用水では取水不能に陥り、臨時の井戸掘削や水当番の復活などが見られた。また沿川の丸亀市、飯山町の水道用水道では、30%～40%程度香川用水に依存しており、香川用水が節水すると同時に水道用水道の節水を実施することとなる。</p>												
	過去の災害実績	<p>1) 過去の主な洪水被害実績</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">発生年月日(原因)</th> <th style="text-align: center;">洪水流量 (m<sup>3</sup>/s)</th> <th style="text-align: center;">被害の状況</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">大正元年9月23日</td> <td style="text-align: center;">不明</td> <td>浸水面積: 156.7(ha) 全壊流出: 15(戸) 浸水家屋: 360(戸)</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">昭和50年8月23日 (台風6号)</td> <td style="text-align: center;">約1,130</td> <td>浸水農地面積: 430(ha) 浸水家屋: 1,350(戸)</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">平成2年9月19日 (台風19号)</td> <td style="text-align: center;">約1,170</td> <td>浸水面積: 67.1(ha) 床上浸水: 87(戸) 床下浸水: 177(戸)</td> </tr> </tbody> </table>	発生年月日(原因)	洪水流量 (m <sup>3</sup> /s)	被害の状況	大正元年9月23日	不明	浸水面積: 156.7(ha) 全壊流出: 15(戸) 浸水家屋: 360(戸)	昭和50年8月23日 (台風6号)	約1,130	浸水農地面積: 430(ha) 浸水家屋: 1,350(戸)	平成2年9月19日 (台風19号)	約1,170	浸水面積: 67.1(ha) 床上浸水: 87(戸) 床下浸水: 177(戸)
	発生年月日(原因)	洪水流量 (m <sup>3</sup> /s)	被害の状況											
大正元年9月23日	不明	浸水面積: 156.7(ha) 全壊流出: 15(戸) 浸水家屋: 360(戸)												
昭和50年8月23日 (台風6号)	約1,130	浸水農地面積: 430(ha) 浸水家屋: 1,350(戸)												
平成2年9月19日 (台風19号)	約1,170	浸水面積: 67.1(ha) 床上浸水: 87(戸) 床下浸水: 177(戸)												

事業を巡る社会経済情勢等の変化	過去の災害実績										
	2) 近年の渇水被害実績（香川用水取水制限状況）	<table border="1"> <thead> <tr> <th>取水制限期間</th> <th>取水制限状況</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H. 6. 6.29 ~ 8.19 H. 6. 8.31 ~ 11.14</td> <td>早明浦ダム利水容量が底をつき発電専用容量から生活用水のみ補給</td> </tr> <tr> <td>H.7. 8.28 ~ 10.23</td> <td>香川用水取水制限率 最大50%</td> </tr> <tr> <td>H.10. 8.30 ~ 9.21</td> <td>香川用水取水制限率 最大50%</td> </tr> <tr> <td>H.13. 6.17 ~ 9.11</td> <td>香川用水取水制限率 最大35%</td> </tr> </tbody> </table>	取水制限期間	取水制限状況	H. 6. 6.29 ~ 8.19 H. 6. 8.31 ~ 11.14	早明浦ダム利水容量が底をつき発電専用容量から生活用水のみ補給	H.7. 8.28 ~ 10.23	香川用水取水制限率 最大50%	H.10. 8.30 ~ 9.21	香川用水取水制限率 最大50%	H.13. 6.17 ~ 9.11
取水制限期間	取水制限状況										
H. 6. 6.29 ~ 8.19 H. 6. 8.31 ~ 11.14	早明浦ダム利水容量が底をつき発電専用容量から生活用水のみ補給										
H.7. 8.28 ~ 10.23	香川用水取水制限率 最大50%										
H.10. 8.30 ~ 9.21	香川用水取水制限率 最大50%										
H.13. 6.17 ~ 9.11	香川用水取水制限率 最大35%										
地域の状況	地域の開発の状況										
	特に無し										
地域の状況	地域の協力体制										
	<p>1) 前の川ダムの休止</p> <p>前の川ダム建設事業は、平成3年に実施計画調査に着手したが、水開発単価が高く流域の市町の利水参画が難しいことと、洪水対策としては河道対策などで対応できるということから平成10年に休止となった。</p> <p>2) 土器川利水検討会の発足</p> <p>平成11年10月に土器川流域を中心とした水利用・河川環境等のあり方について調査・検討を目的に、国・県・自治体・土地改良団体が発足された。</p>										
事業の投資効果	評価の基となる需要予測										
	<p>—</p> <p>費用便益費</p> <p>現在の費用便益費：B / C = 1.46</p> <p>（基準年：平成11年度 検討年次50年間で算出 治水相当分）</p> <p>総費用：542億円（事業費及び維持管理費）</p> <p>総便益：789億円</p> <p>※費用は、土器川にダムを建設し既存施設と連携する案を想定し試算。</p>										

## 事業の進捗状況

### 1) 事業の経緯

平成3年度 前の川ダム実施計画調査着手  
平成10年度 前の川ダム建設事業休止  
平成12年度 土器川総合開発事業着手

### 2) 事業の進捗状況

現在は、国、県、自治体・土地改良団体に構成する土器川利水検討会で6方策について検討。

総事業費：590億円

H12～H15年度の事業費：1.4億円

### 3) 現状の課題

#### (利水検討会の実施状況)

H11.10.20. 土器川利水検討会 発足準備会  
H11.11.15. 土器川利水検討会 第1回作業部会  
H12. 1.20. 第1回 土器川利水検討会  
H12. 3. 1. 土器川利水検討会 第2回作業部会  
H13. 2.20. 土器川利水検討会 第3回作業部会  
H14. 3.27. 土器川利水検討会 第4回作業部会  
H14.12. 2. 土器川利水検討会 第5回作業部会  
H15. 6.25. 土器川利水検討会 第6回作業部会  
H15. 7.18. 第2回 土器川利水検討会

#### (利水検討会の結果)

都市用水の単価が現状の水道単価に比べて高い。

検討例 ダム建設による水道単価：1,700円～4,300円/m<sup>3</sup>  
(参考 丸亀市上水道単価：約150円/m<sup>3</sup>)

#### [関係市町村の最終判断]

丸亀市：水単価が高く、利水参画はできない。

飯山町：水単価が高く無理、下水処理の再利用も同様である。

綾歌町：町単独では、新規利水開発の具体的な議論には乗りにくい。

満濃町：原水単価が高すぎるため、到底町としての負担は困難である。

琴南町：原水単価が高すぎるため、到底町としての負担は困難である。

前の川ダムの件で、当該地区は行政不信に陥っており、早く結論を出してもらいたい。

⇒ 利水参画予定者の意向確認：コスト高により不参画。

#### 検討会の結論

- ・ 利水の目処が立たない以上、特定多目的ダム建設事業である土器川総合開発事業は成り立たず、事業の中止はやむを得ない。

事業進捗の見込み(今後の見通し)	
<p>土器川の治水・利水・河川環境問題を総合的に解決するため「土器川総合開発事業」において調査・検討を実施したが、利水の目処が立たず多目的ダム事業としては成り立たない。</p>	
コスト縮減や代替案立案の可能性	
<p>1) 代替案の可能性の検討  河川整備基本方針、河川整備計画を立案する中で検討していく。</p> <p>2) コスト縮減方策  —</p>	
地方公共団体等の意見	<p>[利水検討会の結論]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 利水の目処が立たない以上、特定多目的ダム建設事業である土器川総合開発事業は成り立たず、事業の中止はやむを得ない。</li> <li>・ なお、今後とも水資源対策については、利水検討会において国・県・地方自治体・関係者が協力して努力していく。</li> <li>・ また、土器川の治水・利水・環境については、河川整備計画を策定する中で流域の意見を踏まえて検討していく。</li> </ul>
対応方針(案)	<p>事業(前の川ダムの建設を含む)は中止とする。</p> <p>なお、今後、土器川の治水・利水・環境の問題に関しては、河川整備計画を策定する中で流域の意見を踏まえて検討する。</p>